

業界横断の共通基盤構築へ

アクション

本人確認・不正検知を高度化

セブン銀行と電通国際情報サービスが設立したACSION（アクション）は、金融庁から銀行業高度化等会社の認可を取得し、事業展開を本格化していく。セキュリティなどコスト負担が大きい業務課題を、共通プラットフォームの提供を通じて解決する。業界を横断した情報共有の仕組みが特長で、金融機関の業務高度化を図る。

主なソリューションで阻止する「不正検知は、提携する企業・団体の本人確認を共通化・高度化する」「本人確認プラットフォーム」と、不正な取引を業界横断

本人確認事業はECサイトやインターネットゲーム会社など、会員情報を保有する企業との提携を見込む。銀行は当局から住所変更

など最新の顧客情報捕捉を求められている。異業種との連携で情報をアップデートすることで、顧客の手続き負担軽減と金融機関の業務効率化を支援する。不正検知では、不正なアカウント開設などを防止する共通基盤としてサービスの安全性を高める。セブン銀が培ったリスク算出のノウハウを生かし、金融

機関ですぐに利用できるフォーマットを提供予定。さらに、取引の種類や所管部署によって、検出基準を調整できるカスタマイズ機能も実装する。不正取引対策の課題として、口座開設の審査と開設後の取引監視でリスク情報が引き継がれないケースがある。同社は本人確認とトランザクションに着目した検知に同時に取り組むことで、一般的な金融犯罪の低減につなげていく考えだ。安田貴紀代表取締役CEOは「金融業界と他業種の協力関係を構築する。セキュリティなど非競争領域の効

率化を通じて、銀行業の高度化に寄与したい」と語る。